

きゅうり病害虫防除暦

JA庄内たがわ 令和6年版

2024年1月1日時点の農薬登録情報により作成

防除時期	対象病害虫										薬剤名	希釈倍率	水1000当たり 薬剤量	使用時期	使用回数	使用方法	成分	同一成分回数 (薬剤名が異なっても同一 成分の薬剤は使用回数に カウント)	RAC コード	効果		備考	
	べと病	斑点細菌病	うどんこ病	灰色かび病	炭疽病	菌核病	褐斑病	つる枯病	黒星病	アブラムシ類										コナジラミ類	ハダニ類		予防
												トップジンM水和剤	1500~2000倍	66~50g	収穫前日まで	5回以内	散布	テオファネートメチル		F: 1	○	○	
												スミレックス水和剤	1000~2000倍 1000倍	100~50g 100g	収穫前日まで	6回以内	散布	プロシミドン		F: 2	○	○	定植直後又は幼苗、軟弱苗等・高温時には葉害のおそれ。
												ロブラール水和剤	1000~1500倍 1000倍	100~66g 100g	収穫前日まで	4回以内	散布	イプロジオン		F: 2	○	○	
												ロブラールくん煙剤(劇)	くん煙室容積300~400立方メートル(高さ2m、床面積150~200㎡)当り100g(50g×2個)		収穫前日まで	4回以内	くん煙	イプロジオン	イプロジオン 合わせて 4回以内	F: 2	○	○	作物がハウスの天井に触れるくらいに大きくなっている場合、上方にたまった濃煙に触れる部分に葉害を生じるおそれがある。
												トリフミン水和剤	3000~5000倍	33~20g	収穫前日まで	5回以内	散布	トリフルミゾール		F: 3	○	○	幼苗期に、濃緑化症状・生育抑制の恐れがあり、使用しない。
												アフットフロアブル	2000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	散布	ベンチオピラド		F: 7	○	○	
												フルピカフロアブル	2000~3000倍	50~33ml	収穫前日まで	4回以内	散布	メバニピリム		F: 9	○	○	
												アミスター20フロアブル	1500~2000倍 1500倍 2000倍	66~50ml 66ml 50ml	収穫前日まで	4回以内	散布	アゾキシストロピン		F:11	○	○	浸透性を高める効果のある展着剤の混用は葉害のおそれ。
												ストロビーフロアブル	3000倍	33g	収穫前日まで	3回以内	散布	クレソキシムメチル		F:11	○	○	調整の際は、水をかきまぜながら所定量を徐々に加える。浸透性を高める効果のある展着剤の混用は葉害のおそれ。
												セイビアフロアブル20	1000~1500倍 1000倍	100~66ml 100ml	収穫前日まで	3回以内	散布	フルジオキサニル		F:12	○	○	繰り返し使用する場合は散布間隔を7日以上あける。
												ザンブロDMフロアブル	1500~2000倍	66~50ml	収穫前日まで	3回以内	散布	アマトクトラジン ジメトモルフ		F:45 F:40	○ ○	○	
												ランマンフロアブル	1000~2000倍	100~50ml	収穫前日まで	4回以内	散布	シアゾファミド		F:21	○	○	
												ダイナモ顆粒水和剤	2000~5000倍	50~20g	収穫前日まで	3回以内	散布	アミスルプロム シモキサニル	シモキサニル 合わせて 3回以内	F:21 F:27	○ ○	○	
												ブリザード水和剤	1500倍 1500~2000倍	66g 66~50g	収穫前日まで	3回以内	散布	シモキサニル TPN		F:27 F:M05	○ ○	○	
												プロポーズ顆粒水和剤	1000~1500倍 1000倍	100~66g 100g	収穫前日まで	3回以内	散布	ベンチアバリカルブイソプロピル TPN		F:40 F:M05	○ ○	○	
												ダユニール1000	1000倍	100ml	収穫前日まで	12回以内	散布	TPN	TPN 散布は 合わせて 12回以内	F:M05	○	○	
												フォリオゴールド	800倍 800~1000倍	125ml 125~100ml	収穫前日まで	3回以内	散布	メタラキシルM TPN		F:4 F:M05	○ ○	○	
												カスミンボルドー	1000倍	100g	収穫前日まで	5回以内	散布	カスガマイシン 塩基性塩化銅		F:24 F:M01	○ ○	○	幼苗期・生育初期・高温時・連続散布は葉害のおそれ。
												サンヨール	500倍	200ml	収穫前日まで	4回以内	散布	DBEDC		F:M01	○	○	展着剤を加える必要はない。高温時葉害のおそれ。多湿下の施設内で使用する場合は、散布した薬液が早く乾燥するように通気性を良くして散布する。
												ジーファイン水和剤	750~1500倍 1000倍 750~1000倍	133~66g 100g 133~100g	収穫前日まで	—	散布	炭酸水素ナトリウム 無水硫酸銅		F:NC F:M01	○ ○	○	水に溶かす際はラベルの注意事項をよく読むこと。幼苗期・高温時・極端な低温時・湿潤状態が長時間続く・連続散布は葉害のおそれ。
												ジマンダイセンフロアブル	500~800倍	200~125ml	収穫前日まで	3回以内	散布	マンゼブ		F:M03	○	○	極端な高温多湿条件下では、軟弱幼苗に葉害のおそれ。
												オーソサイド水和剤80	600~800倍 600倍	166~125g 166g	収穫前日まで	5回以内	散布	キャプタン		F:M04	○	○	
												アリエッティC水和剤	400~800倍	250~125g	収穫前日まで	3回以内	散布	キャプタン ホセチル	キャプタン 合わせて 5回以内	F:M04 F:P07	○ ○	○	無機銅剤との近接散布は葉害のおそれ。フロアブル剤と混用する場合、必ずフロアブル剤を最初に所定濃度に希釈してから、この剤を最後に加える。
												ダイパワー水和剤	1000倍	100g	収穫前日まで	5回以内	散布	キャプタン イミノクタジンアルベシル酸塩		F:M04 F:M07	○ ○	○	
												ベルコートフロアブル	2000倍	50ml	収穫前日まで	7回以内	散布	イミノクタジンアルベシル酸塩	イミノクタジン 合わせて 7回以内	F:M07	○	○	
												ベフドー水和剤	500倍 1000倍	200g 100g	収穫前日まで	7回以内	散布	イミノクタジン酢酸塩 塩基性塩化銅		F:M07 F:M01	○ ○	○	幼苗期・高温時・連続散布は葉害のおそれ。
												モレスタン水和剤	2000~4000倍 2000倍	50~25g 50g	収穫前日まで	3回以内	散布	キノキサリン系		I:UN F:M10	○	○	高温時葉害のおそれがあるので、所定範囲内での低濃度で使用。定植直後や幼苗、軟弱苗等には使用しない。

＜土壌処理剤＞

防除時期	対象病害虫										薬剤名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	RAC コード	成分	備考	
	1年生雑草	白絹病	つる割病	半身萎凋病	ネグサレセンチュウ	ネコブセンチュウ	アブラムシ類	アザミウマ類	ホモジナス根腐病	ネコブセンチュウ									前作の古株枯死
												ガスタード微粒剤(劇)	20~30kg/10a	播種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	I: 8F F:M03 H:Z	ダゾメット	
												キルパー	原液として40~60g/10a 原液として60g/10a 原液として40~60g/10a 原液として60g/10a	播種または定植15日前まで 前作の栽培終了後から残渣撤去まで 但し、は種又は定植の15日前まで	1回	予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。	I: 8F H:Z	カーバマナトリウム塩	
												ネマキック粒剤	15~20kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	I: 1B	イミシアホス	
												ネマトリンエース粒剤	15~20kg/10a	は種前又は定植前	1回	全面土壌混和	I: 1B	ホスチアゼート	
												バイデートL粒剤(劇)	25~50kg/10a	播種前又は定植前 定植前	1回	全面土壌混和	I: 1A	オキサミル	
生育期												ネマキック液剤(劇)	4000倍	生育期 但し、収穫前日まで	1回	土壌灌注(2g/㎡)	I: 1B	イミシアホス	

＜除草剤＞

防除時期	適応雑草	薬剤名	使用量	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法	RAC コード	成分	備考
生育期	1年生雑草	バスタ液剤	300~500ml/10a	100~150リットル/10a	収穫前日まで	3回以内 (雑草生育期定植前又は畦間処理)	雑草莖葉散布	H:10	グルホシネート	うり類(未成熟)で登録

きゅうり病害虫防除暦

JA庄内たがわ 令和6年版

2024年1月1日時点の農薬登録情報により作成

防除時期	対象病害虫										薬剤名	希釈倍率・使用量	水100ℓ当たり 薬剤量	使用時期	使用回数	使用方法	成分	同一成分回数 (薬剤名が異なっても同一 成分の薬剤は使用回数に カウント)	RAC コード	備考		
	アザミウマ類	ミナミキイロアザミウマ	ミカンキイロアザミウマ	カメムシ類	ハモグリバエ類	ハスモンヨトウ	ウリハムシ	ウリノメイガ	アブラムシ類	オンシツコナジラミ											コナジラミ類	
定植前	○											ベストガード粒剤	1~2g/株		定植時	1回	植穴処理 土壌混和	ニテンピラム	I:4A	定植時までの 処理 どれか ひとつを 選択		
		○										ダントツ粒剤	1~2g/株 2g/株		定植時	1回	植穴処理 土壌混和	クロチアニジン	I:4A			
	○											ブリロッツ粒剤	2g/株		育苗後半 ~定植時	1回	株元散布	シアントラニプロール	I:28			
	○											ベリマークSC	400株当り25mLの薬剤を、10~ 20ℓ(1株当り25~50mL)の水に溶 かす		育苗後半 ~定植当日	1回	灌注	シアントラニプロール	I:28			
	○											モベントフロアブル	500倍	200ml	育苗後半 ~定植当日	1回	株元灌注 (50ml/株)	スピロテトラマト	I:23		軟弱な苗への灌注は、葉害を生じる おそれ。薬液が新芽にかかると縮葉 等の葉害を生じるおそれ。	
													2000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	散布					
													1000~2000倍	100~50ml	収穫前日まで	5回以内	散布	MEP			I:1B	
													1000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内	散布	マラソン			I:1B	
													1000倍	100g	収穫前日まで	4回以内	散布	アクリナトリン			I:3A	ハダニ類の抵抗性発達防止のため、 他剤とのローテーションで使用する。 本剤の年間使用回数もできるだけ少 なくする。
													くん煙室容積400立方メートル(高 さ2m、床面積200㎡)当り50g		収穫前日まで	2回以内	くん煙	フルバリネット			I:3A	温室・ビニールハウ ス等密閉できる場所 作物がハウス天井(内張を含む)に触 れるくらい大きくなっている場合、上 方にたまった濃煙と触れる部分に葉害 を生じるおそれがある。
生育期												2000倍	50g	収穫前日まで	3回以内	散布	チアマトキサム		I:4A			
												3000倍	33g	収穫前日まで	3回以内	散布						
	○											2000倍	50g	収穫前日まで	3回以内	散布	イミダクロプリド		I:4A	施設栽培のみでの 登録		
	○											2000~4000倍	50~25g	収穫前日まで	3回以内	散布	クロチアニジン		I:4A			
	○											2000倍	50g	収穫前日まで	3回以内	散布	アセタミプリド	アセタミプリド 散布・くん煙は合わせて 3回以内	I:4A	幼苗期・高温期は葉害のおそれ。		
												4000倍	25g	収穫前日まで	3回以内	散布						
	○											くん煙室容積400立方メートル(床 面積200㎡×高さ2m)当り50g		収穫前日まで	3回以内	くん煙	アセタミプリド		I:4A	温室・ビニールハウ ス等密閉できる場所		
												1000~2000倍	100~50ml	収穫前日まで	2回以内	散布	スルホキサフル		I:4C			
												2000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	散布						
	○											5000倍	20g	収穫前日まで	2回以内	散布	スピノサド		I:5			
	○											500~1000倍	200~100ml	収穫前日まで	2回以内	散布	アバメクチン		I:6			
	○											2000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	散布	エマメクチン安息香酸塩		I:6			
												5000倍	20g	収穫前日まで	3回以内	散布	ピメロジン		I:9B			
												2000~3000倍	50~33ml	収穫前日まで	2回以内	散布	ヘキシチアゾクス		I:10A	ハダニ類の抵抗性発達防止のため、 年1回の使用とし、他剤とのローテー ションで使用する。		
	○	○										2000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	散布	クロルフェナビル		I:13	幼苗期(1~3葉期)に葉害のおそれ。 散布後に展開する葉やその後の生 育、及び果実に対しては影響ない。ハ ダニ類、アザミウマ類の抵抗性発達 防止のため、一作物一回の使用とす る。		
												1000~1500倍	100~66ml	収穫前日まで	1回	散布	アセキノシル		I:20B	ハダニ類の抵抗性発達防止のため、 年1回の使用とし、他剤とのローテー ションで使用する。アリエッティC水 剤と混用する場合、必ずカネマイトフ ロアブルを最初に所定の濃度に希釈 してからアリエッティC水剤を最後に 加える。		
												1000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	散布	シフルメトフェン		I:25A	ハダニ類の抵抗性発達防止のため、 年1回の使用とし、他剤とのローテー ションで使用する。		
												2000倍	50ml	収穫前日まで	1回	散布	ピフルブミド フェンピロキシメート	フェンピロキシメート 合わせて 3回以内	I:25B I:21A	ハダニ類の抵抗性発達防止のため、 年1回の使用とし、他剤とのローテー ションで使用する。		
											2000倍	50ml	収穫前日まで	1回	散布	フェンピロキシメート		I:21A	ハダニ類の抵抗性発達防止のため、 年1回の使用とし、他剤とのローテー ションで使用する。			
○											※うどんこ病・べと病・褐斑病 にも登録あり1000倍(予防効 果)	1000~2000倍	100~50ml	収穫前日まで	2回以内	散布	トルフェンピラド		I:21A F:39	幼苗期は葉害のおそれ。(使用は3葉 期以降)		
											1000~2000倍	100~50ml	収穫前日まで	3回以内	散布	クロラントラニプロール		I:28				
○											2000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	散布	シアントラニプロール		I:28	アルカリ性の農薬や肥料との混用は さける。TPNを含む農薬との混用は葉 害のおそれ。			
○											2500~5000倍	40~20ml	収穫前日まで	3回以内	散布	テトラニプロール		I:28				
											2000~4000倍	50~25g	収穫前日まで	3回以内	散布	フロニカミド		I:29	徒長したものでは散布時展開葉の葉 縁に葉害を生じることがあるが、その 後の展開葉および生育に影響はない。			
											2000倍	50g	収穫前日まで	3回以内	散布							
○											2000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	散布	フルキサメタミド		I:30				
○											1000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	散布	ピリダリル		I:UN				

☆10a当りの散布量は、生育に応じて150~300ℓ

★農薬の使用時期で「収穫前日まで」との記載は収穫開始の24時間より前に使用することを表します。(山形県農作物病害虫防除基準) 但し、朝に収穫してその後速やかに農薬散布をし、翌朝同じ時間帯に収穫であっても問題ありません。(JCPA農薬工業会) 朝に農薬を散布して夕方に収穫する、夕方に散布して翌朝に収穫するような使用は避けてください。

☆農薬使用上の注意 ~農薬を使用するときは、必ず農薬のラベル表記事項を確認する~

1. 適用農作物 2. 使用量・希釈倍率 3. 使用時期 4. 本剤の使用回数・同一成分を含む総使用回数 5. 使用方法を遵守する。

★農薬散布にあたっての注意(農薬飛散防止など)

1. 病害虫の発生状況等を見て散布する。 2. 適正な栽培密度とし通風・作業性をよくする。 3. 病害虫の温床となるものについては随時、適切に撤去する。 4. ドリフト軽減ノズルや防葉ネットの使用。

☆RACコード

1. 農薬ごとの作用性を分類したものを「RACコード」といい、製品ラベルなどに表示されている。 2. 農薬による耐性・抵抗性は、同一農薬、同一系統の薬剤の連用がその発生要因であると考えられている。

3. RACコードが同一であれば、有効成分が異なっても同一系統の薬剤なので、連用は避ける。

★くん煙剤使用時の注意事項

1. 室外で強い風が吹いているときは、煙が片寄ってしまい、均一な効果が出にくいので使用しない。 2. 定植直後又は幼苗、軟弱苗等には葉害を生ずる恐れがあるので使用はさける。

3. 高温時のくん煙は葉害を生じる場合があるので、なるべく夕方温度が下がってからくん煙する。